

2007年 山陰の旅

1. まえがき

日本技術士会中国・四国支部の幹事会が9月15日(土)に松江であった。17日の月曜日が敬老の日で3連休となることもあり、幹事会への出席を兼ねて山陰の旅を企画した。

旅の目的は、世界遺産に今年登録された石見銀山遺跡、萩市内の松陰神社と東光寺、秋吉台と秋芳洞の見物であった。日程は下記の通りである。

旅の日程

15日 (土)	午前	10:00 高知発 14:10 松江着
	午後	15:00～17:20 技術士会幹事会 17:40～18:30 宍道湖サンセットクルーズ 18:30～19:30 市内散策 19:30～19:00 みな美で食事 松江ニューアーバンホテル泊
16日 (日)	午前	7:30 ホテル出発 9:30 石見銀山着 石見銀山遺跡と街並み散策
	午後	14:30 石見銀山出発 17:15 ホテル着 18:30 ホテルで食事 ウェルハートピア萩泊
17日 (月)	午前	8:00 ホテル発 8:30 松陰神社、東光寺見物 9:30 松江発 10:30 秋吉台 11:30 秋芳洞 12:30 秋芳洞町営駐車場出発
	午後	18:50 帰宅

2. 瀬戸大橋

自宅を10時に出発。南国ICから高知道に乗り、高松道を経由して瀬戸中央道を走る。台風11号が接近しているのが嘘のように青空が見える。

本州と四国を結ぶ瀬戸大橋は、3つの吊橋と2つの斜張橋、1つのトラス橋より構成されている。四国側から南備讃瀬戸大橋、北備讃瀬戸大橋、与島橋(トラス橋)、岩黒島橋、櫃石島橋、下津井瀬戸大橋である。

瀬戸大橋はいつ見ても美しいが、特に今日のように天気の良いと、空の青さに銀色の橋が映えてなおさら美しい。中でも斜張橋である岩黒島橋と櫃石島橋は、白鳥が羽をひろげたような品位のある優美な姿を見せ、感動させる。



櫃石島橋



下津井瀬戸大橋

3. 松江

◆ 宍道湖のサンセットクルーズ

松江といえば宍道湖(しんじこ)。宍道湖と言えば、宍道湖七珍(しっちゃん)とサンセット。写真でしか見たことはないが、宍道湖が真っ赤に染まる夕景は筆舌に尽くしがたい。

来年、松江で開催される日本技術士会全国大会(松江)のポスターのデザインにも宍道湖の夕日が使われている。松江に来た以上は、なんとしても宍道湖の夕日をカメラに納めたいと考えていた。

15時から始まった技術士会の幹事会は予定の17時を過ぎても終わる様子でなかった。宍道湖のサンセットクルーズに間に合わせるため、17時15分に退席する。

ホテルからタクシーで観光遊覧船「はくちょう」の第2乗船場に行く。クルーズの出発時刻は日の入りによって異なっていて、9月15日から9月21日の期間は17時40分となっている。料金は一人1300円。前売り券を買ってなくても、船の中で買うことができる。

空は台風の影響で雲に覆われ、太陽の姿はどこにも見あたらない。サンセットを見られそうにもないが、乗船場では多くの観光客が船の来るのを待っていた。

観光遊覧船「はくちょう」は1号と2号の二隻あり、型式が少し異なっている。私達は写真のように屋根に上れる2号に乗船した。



宍道湖遊覧船「はくちょう2号」



欄干が美しい松江大橋

船は、新大橋、松江大橋、宍道湖大橋を潜って宍道湖に出た。新大橋と松江大橋は桁下が低いので、船の屋根に乗っていると頭を橋桁にぶつける危険性がある。風が強いと船が出られないのは、桁下に余裕がないためと納得した。

宍道湖の大きさは東西に17km、南北に6km、周囲は47km。フルマラソンに丁度よい広さである。宍道湖大橋から約5km西に嫁ヶ島がある。湖内ただ一つの島である。嫁ヶ島の北側にたくさんの白鳥が姿を見せていた。



宍道湖大橋



宍道湖の中に浮かぶ嫁ヶ島



嫁ヶ島の白鳥



どんより曇って夕日はどこにいるのやら



京橋と風涼堂



橋桁に頭をぶつけないように



京橋から眺めた堀川の夜景



東京橋から眺めた堀川の夜景

太陽は雲に隠れたままで、宍道湖に姿を映すことはなかった。しかし、広大な宍道湖の景色を見、快適な納涼を体験できたことは大いに満足であった。遊覧時間は50分。

高知でも真っ赤な夕焼けを見られるときは滅多にない。まして、いつもどんより曇った山陰地方。宍道湖で真っ赤に染まった夕日を見られないのは、カプリ島で青の洞窟に入れないのと同じに違いはないと思えた。

◆ 市内散策と食事

食事まで1時間ほど時間があつたので、周辺を散策する。レトロな照明と店先ののれんが、ノスタルジック(懐かしい、郷愁)な街並みを演出しており、心が癒される。

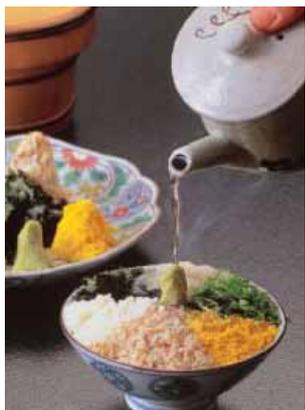
7時30分、予約をしておいた皆美(みなみ)館に行く。ここは一泊二食付きで35,000~40,000円/人という松江では超高級旅館。



食事をした皆美館(旧・皆美旅館)



食事をした皆美館の椅子席(皆美館 HP より)



皆美家秘伝の鯛めし(皆美館 HP より)

ウェブサイトの情報で、ここの「鯛めし」の評判が良かったので、一人 5,250 円の鯛めし会席を予約しておいたのである。

料理を食べながら生ビール 1 杯、焼酎のお湯割りを 2 杯飲む。最後に鯛めしが出てきた。ご飯の上に鯛のそぼろ、玉子の白身と黄身、おろし大根、海苔、ネギ、わさびをのせ、それに秘伝の特製だしをたっぷり注いでお茶漬けのようにして食べる。料理を食べた後であるので、私には茶碗一杯でも多すぎたが、あまりの旨さに茶碗二杯すべてを平らげてしまった。

4. 石見銀山遺跡

石見(いわみ)銀山は今年の 7 月、日本では 14 番目の世界遺産としてユネスコに登録された。それ以来、観光客は昨年の 3 倍に急増し、現地は非常に混雑しているとの情報を得ていたため、朝食を済ませるとすぐにホテルを出発した。石見銀山遺跡へのパーク＆ライドが行われている P1 駐車場に到着したのは、9 時 30 分であった。松江から 2 時間を要していた。時間が

早かったため、まだ 2、3 台の駐車スペースは残っていた。

P1 駐車場より緑色のステッカーが貼られた小型路線バスに乗り、代官所広場まで行き、そこで赤色ステッカーの貼られた路線バスに乗り換えて、最も奥の龍源寺間歩(まぶ)まで行った。バスフリー乗車券は一人 500 円。P1 駐車場で売られている。

間歩の入口で、龍源寺間歩、五百羅漢、武家屋敷(旧河島家)、熊谷家住宅、石見銀山史料館(大森代官所跡)の 5 施設に自由に入場できる石見銀山散策チケット(1500 円)を買う。



P1 駐車場から代官所広場に到着した緑色ステッカーバス



代官所広場で龍源寺間歩行きバスを待つ



龍源寺間歩の入口にあるチケット売り場

間歩とは銀を掘るために掘った坑道。石見銀山には 600 余りの間歩が存在する。その中で一般公開されているのは「龍源寺間歩」の 273m 区間のみ。

間歩を見物したあと、バスで銀山公園まで下り、そこから徒歩で五百羅漢、旧河島家、熊谷家住宅、石見銀山史料館の順番に見学しながらバス乗り場の代官所広場まで下りてきた。



龍源寺間歩



石見銀山遺跡散策コース



龍源寺間歩の出口



龍源寺間歩からバス停留所に降りていくまでの途中にある神社



龍源寺間歩の入口



石垣は銀山時代の宅地跡だろう



五百羅漢のあるお寺



太田市大森町の街並み



五百羅漢石像は背後の扉の奥にあり撮影禁止



旧・河島家(武家屋敷)



銀山公園近くの街並み



街並み地区



陶器やお菓子などを売る店。喫茶もやっており、ケーキとコーヒーを飲む。



ガイドブックにも紹介されている中村製パン
当店人気 No.1 という「おはぎパン」150 円を買う。



熊谷家住宅



石見銀山資料館(大森代官所跡)



石見銀山資料館と並んだ中村ブレイス株式会社

石見銀山資料館の横隣に、中村ブレイスという会社がある。1974年に義肢装具製作所として創業。その後、従来の義肢装具製作に新素材や新技術を取り入れる研究を重ね、新しい義肢装具、医療器具を開発している会社である。

この会社の中村俊郎社長は、石見銀山資料館のリニューアルに尽力され、資料館の理事長もされている。

石見銀山遺跡を世界遺産としてユネスコに登録した立役者とも言われている。

代官所広場から緑色のステッカーを付けたバスに乗り、自動車を駐車しているP1駐車場まで帰る。時間は既に14時を過ぎていたが、P1、P2、P3のどの駐車場も満杯で、観光客の車が道路に列をなしていた。ここへ来るのなら、朝の早い時間帯でないと大変である。

バスの運転手に、「繁盛して良いですね」と話しかけると、「忙しいばかりよ」という愛想のない返事であった。平日でも観光客は多いそうである。

5. 萩

◆ ウェルハートピア萩

宿泊先のウェルハートピア萩に到着したのは、17時15分。石見銀山から約3時間の距離であった。

ウェルハートピア萩は厚生年金福祉施設。建物の東側は有料老人ホーム。西側は宿泊客以外でも利用できる萩指月温泉になっている。湯質はカルシウム・ナトリウム。



ウェルハートピア萩の正面玄関



日本海に面したウェルハートピア萩の背後



部屋は高級リゾートホテル並み



松下村塾の講義室



菊ヶ浜海水浴場



増築した松下村塾の講義室

部屋は高級リゾートホテルのようにゆったりした作りになっている。温泉にはサウナ, 打たせ湯, エアー・ジェット・バスなどがあり, 設備がとても充実している。宿泊料金は一人 4,650 円。格安のビジネスホテル並みである。

◆ 松下村塾と松陰神社

ホテルを 8 時に出発して, 9 時 30 分までの 90 分間で松下村塾と東光寺を観光する。

松下村塾とは, 藩校明倫館の塾頭を務めた吉田松陰が, 実家である杉家に塾居(ちっきよ。家の中に閉じこもる)した 1855 年(安政 2 年)に, 杉家の母屋を増築してつくった塾。

わずか 3 年で廃止されたが, 後に活躍する多くの人材を輩出した。著名な門下生には久坂玄瑞, 高杉晋作, 吉田稔麿, 入江九一, 伊藤博文, 山県有朋, 前原一誠, 品川弥二郎, 山田顕義, 野村靖, 飯田俊徳, 渡辺蒿蔵(天野清三郎), 松浦松洞, 増野徳民, 有吉熊次郎らがいる。



松陰が幽囚した杉家



敷地の一番奥にある松陰神社

◆ 東光寺

東光寺は、毛利家の菩提寺。三代吉就，五代吉元，七代重就，九代斉房，十一代斉元の奇数代藩主五代が眠っている。かつては堂塔 40 棟，僧 80 人という大寺院であったが 現在は総門，三門，大推宝殿，鐘楼が名残をとどめている。いずれも国の重要文化財に指定されている。

東光寺の見所は，藩主の墓前に家臣達が寄進した約 500 基の石灯籠。毎年 8 月 15 日に開かれる万灯会では，送り火として全ての灯籠に灯が入られ幻想的な雰囲気醸し出すと言われている。



国の重要文化財に指定されている三門



毛利家の奇数代藩主五代が眠る墓地



家臣達が寄進した約 500 基の石灯籠



家臣達が寄進した約 500 基の石灯籠

6. 秋吉台と秋芳洞

◆ 秋吉台

萩を出発してから 50 分で日本一のカルスト台地，秋吉台に到着した。緑色の草原に白い石灰岩が露出し，美しい風景をつくっている。

秋吉台展望台の横の土産店では夏みかんのソフトクリームがよく売っていた。ここの名物で，甘くなく，さっぱりして美味しい。



カルスト台地をバックに



カルスト台地をバックに



名物・夏みかんのソフトクリーム



背後の建物は秋吉台展望台と土産物店



秋芳洞の地図(秋吉台・秋芳洞観光サイトより)

◆ 秋芳洞

秋芳洞(あきよしどう)とは、山口県美祢郡秋芳町(みねぐんしゅうほうちょう)から美東町(みとうちょう)にかけて、秋吉台(あきよしだい)の地下 100m に位置する鍾乳洞。洞口に瀧があるため古くから「瀧穴」と呼ばれていたが、1926 年、当時皇太子だった昭和天皇がこの鍾乳洞を探勝し、「秋芳洞」と名付けられた。

総延長は 8790m あるが、観光用に公開されている部分は約 1.5km である。国の特別天然記念物に指定されている。

秋吉台には、この他に、景清洞と大正洞 の 2 つの鍾乳洞がある。

秋芳洞への入洞料金は一人 1200 円。秋芳洞へは、秋芳洞案内所(秋芳洞正面入口)、黒谷案内所(黒谷口)、秋吉台案内所(エレベーター)の 3ヶ所の入口から入ることができる。

秋芳洞正面入口から黒谷口までの高低差は



秋芳洞への入口

40m あり、秋芳洞正面入口から入ると「上りコース」、黒谷から入ると「下りコース」となる。秋吉台と秋芳洞を結ぶ「エレベーター」から秋芳洞へ入ると、秋芳洞正面入口から 700m、黒谷口から 300m の地点に下りる。秋芳洞から

エレベーターで上がると、秋吉台に出ることができる。秋芳洞観覧所要時間は 40 分～1 時間である。

私達は有料(350 円)の町営駐車場に駐車して、そこから歩いて商店街を通り抜けて、秋芳洞正面入口から洞窟に入って黒谷口に出、そこからは料金 850 円を支払ってタクシーで駐車場まで降りてきた。終点のマリア観音から黒谷口まではコンクリートのトンネルになっているので見るべき所は何もない。マリア観音から洞窟内を引き返すべきであった。

観光バスの場合には、黒谷口から入り、秋芳洞入口から出て、土産物店が並んだ商店街で食事をし、お土産を買って、迎えのバスに乗るのが一般的コースのようである。黒谷口から入ると、下りになるので歩くのも楽になる。



洞窟内の気温は常に 17℃。秋芳洞から流れ出した水は冷たい。空気も冷やされてとても気持ちがいい。



秋芳洞の入口。



洞窟内は暗くて A モードや P モードでは写真が写らない。



百枚皿(リムストーン)。カメラを手摺りの上に置いて固定し、シャッター速度が遅い夜景モードで撮影する



通常モードで撮影すると背景が真っ暗になる



直径 4m、高さ 15m の黄金柱は、つらら石と石筍がくっついた後を、滝のように流れた水に含まれる石灰分が覆った「滝状石灰華」。秋芳洞一番の名所になっている。



マリア観音



秋芳洞黒谷口

7. あとがき

今回の旅行で初めての場所は石見銀山だけであった。松江には2002年8月29日に来ている。土木学会と地盤工学会及び松江高専主催の講習会で講師をするためである。その後、2002年11月21日にも出雲市の(株)イズコンより講演を依頼されたときに妻と一緒に堀川遊覧をしている。松江の記憶は鮮明であった。

松陰神社と東光寺は四国建設コンサルタント(株)に勤務していた時代に社内旅行で一度来ているが、記憶に残っているのは松下村塾の講義堂だけであった。秋吉台と秋芳洞は、四国建設コンサルタント(株)の社内旅行、(株)第一コンサルタンツに入ってから土木学会中四国支部の技術研究発表会で来ているはずであるが、ほとんど記憶に残っていなかった。

今回の旅行では地名の読み方の難しさを知らしめられた。「秋芳町の秋吉台と秋芳洞」を「しゅうほうちょうのあきよしだいとあきよ

しどう」、石見銀山を「いわみぎんざん」と正しく読める人がどれだけいるだろうか。

今回の旅行で感動が大きかったのは、皆美館(みなみかん)の「鯛めし」と秋芳洞であった。

石見銀山遺跡に、世界遺産として今後も多くの観光客を迎え入れるためには、駐車場や街並みを整備する必要がある。駐車場が狭すぎる。電線は地中化すべきである。資料館も、蠟人形を陳列するなど当時の様子を分かりやすくするための工夫が望まれる。

最後の目的地となる秋芳洞の観光を終えたのは12時30分であった。国道435号を通過して美祢(みね)インターから中国道に乗り、最初のサービスエリアである美東SAで昼食をとる。このレストランは、ふぐ料理が名物らしく、ふぐを使ったメニューが多い。

山口JCから山陽道に入り、瀬戸中央道を経由し、高知道を走って自宅に帰り着いたのは18時50分であった。途中、美東SA、小谷SA、豊浜SAで休憩をとったため、6時間30分を要したが、もしも休憩をとらなければ5時間弱で帰ることができたことになる。(2007.9.20)